

渋谷区・パリ市六区文化交流特別展
パリ国立高等美術学校所蔵

19世紀ローマ賞絵画

Le Prix de Rome de Peinture au XIXe siècle.
Tableaux de l'École nationale supérieure
des Beaux-Arts

会期——1989年10月17日(火)——12月3日(日)

開館時間——午前9時——午後5時(入館は4時30分まで)

休館日——10月23日(月)、30日(月)、

11月6日(月)、7日(火)、12月11日(日)、13日(月)、20日(月)、24日(金)、27日(月)

会場——渋谷区立松濤美術館

渋谷区松濤2-14-14 TEL.465-9421
渋谷駅下車徒歩15分 神泉駅下車徒歩5分

アレクサンドル・カバネル
《法廷の中のキリスト》
1845年



主催——渋谷区立松濤美術館／パリ国立高等美術学校
後援——読売新聞社／フランス大使館

入館料——一般 個人200円(160円) 小・中学生 個人100円(80円) ※ ()内は20人以上の団体割引料金

「レ・ボザール」と呼ばれ親しまれてきたパリの美術学校は、アカデミーとともに公的な美術機関としてフランスの近代絵画史上で指導的役割を果たしました。そのなかでローマ賞は毎年行われ画家にとって最も栄誉あるものでした。受賞者は報奨としてローマに留学することができ、ボザールの教育を具現する芸術家としてその将来を嘱望され、華々しい活躍をしました。

19世紀のフランス絵画はフランス革命以後の新しい市民社会の形成と展開のなかに生まれ開花した芸術です。古代古典の理想美を指向するなかでそれを越えようとする奔放な情熱をはらんだ絵画を創造しました。本展ではとくにフラゴナールを含めアング

ル、ブーグロー、カバネル、エバールといった19世紀のフランス・アカデミーを代表する評価の高い画家を選びました。ローマ賞絵画はアカデミーの理念を理解するうえで、さらに19世紀のフランス絵画の精髓を示すうえでも重要な作品と言えます。

本展は渋谷区とパリ市六区との文化交流の一環として開催されるものです。六区にあるパリ国立高等美術学校の協力を得てその所蔵作品のなかから、フランス革命後の1797年から第2帝政時代の1861年までのローマ賞絵画とそれに関連する作品、油彩画43点とデッサン20点を陳列します。



ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル
《アガメムノンの使いを迎えるアキレウス》 1801年



ジャン＝オノレ・フラゴナール
《黄金の仔牛に生乳を捧げるヤラベウム》
1752年



ウィリアム・ブーグロー
《アラクス川岸で牧人たちに発見されるゼノビア》。1850年



ピエール＝ナルシス・ゲラン
《小カトの死》 1797年



ロマン＝エティエンヌ＝ガブリエル・ブリウール
《オデュッセウスとナウシカア》 1833年

講演会

10月22日(日)午後2時から

「ローマ賞と19世紀フランス絵画」

高階秀爾氏(東京大学教授)

美術相談

10月29日(日)午後1時から4時まで

講師＝洋画家 磯村敏之、日本画 戸田康一

11月5日(日)午後1時から4時まで

講師＝洋画家 宮田翁輔、日本画 荒井朝吉

映画会

11月3日(金)午後2時から

「アングル 古典主義画家の孤独な反乱」

Ⅰ 形体のエロティシズムー

Ⅱ 絵画の官能とはー

11月19日(日)午後2時から

「ドラクロワ ロマン主義の逆襲」

Ⅰ 時代に遅れてきた青年ー

Ⅱ 一魂の貴族性についてー

